



2011年2月17日
株式会社ウェッジホールディングス
2011年2月 会社説明会

Contents

- **当社の概要**
 - 会社概要
 - 沿革
 - 主要グループ会社の構成
 - 4つの事業セグメント
- **2011年9月期第1四半期業績と財務状況**
 - 2011年9月期 第1四半期連結経営成績(P/L)
 - 連結業績の推移
 - 2011年9月期 第1四半期連結財務状況(B/S)
- **セグメント別業績と事業トピックス**
 - セグメント別売上高および営業利益
 - セグメント別売上構成
 - 投資育成事業の概況
 - ファイナンス事業の概況
 - コンテンツ事業の概況
 - 物販事業の概況
- **今後の事業方針と各事業の取り組み**
 - 事業方針
 - 投資育成:社債転換で事業化を検討中
 - ファイナンス:地方でのシェア拡大へ
 - コンテンツ:新規の売上拡大に注力
 - 新規事業:スポーツ関連事業に参入
 - 当社グループの課題について
- **業績予想と株主還元について**
 - 2011年9月期(第10期)の連結業績予想
 - 株主還元に関する方針

当社の概要

会社概要

- **会社名: 株式会社ウェッジホールディングス**
(英語表記: Wedge Holdings CO., LTD.)
 - － **設立:** 2001年10月
 - － **資本金:** 1,839,143,700円
 - － **上場市場:** JASDAQ グロース
 - － **代表者:** 代表取締役社長 田代宗雄
 - － **本部事業所:** 東京都中央区日本橋本町1-9-4
Daiwa日本橋本町ビル
 - － **従業員数** 302人(うち海外221名)
※グループ全体・2010年12月末時点
 - － **グループ会社**
 - **国内子会社** 株式会社 ラディクスモバニメーション
株式会社 ペプトワンニュートリション
 - **海外子会社** Group Lease PCL(タイ 証券取引所一部上場)
Engine Holdings Asia PTE(シンガポール)

沿革

- 2001年10月 株式会社ブレインナビとして設立
 - » 編集プロダクション事業を中心に展開
- 2004年1月 大阪証券取引所ヘラクレス市場(現JASDAQ)に株式上場
 - » 翌年にかけて、物販事業、投資事業へとM&Aを含め事業領域を拡大

- 2005年7月 会社分割により株式会社ウェッジホールディングスとして持ち株会社に移行
 - » その後一部の子会社の吸収により事業持ち株会社化
 - » 2007年9月期まで3期連続の赤字が続く業績低迷期に
 - » 2007年9月 第三者割当増資により東南アジアに展開する投資会社APFグループが筆頭株主に

2001~2004

設立と
上場期

2005~2007

業績
低迷期

2008

経営
改革期

2009~

新たな
成長へ

- 2007年12月 経営体制を刷新、改革に着手
- 2008年11月 2008年9月期、黒字転換

- 2009年1月 シンガポールにEngine Holdings Asiaを設立、東南アジアへの投資基盤を強化
- 2009年7月 タイ株式市場一部上場ファイナンス会社 Group Lease PCLを連結子会社化、ファイナンス事業に進出
- 2010年7月 コンテンツ事業・物販事業子会社を吸収合併
- 2010年10月 スポーツ関連事業を行なう(株)ペプトワンニュートリションを子会社化

主要なグループ会社の構成

- ・東南アジア、タイ・シンガポールへと事業領域を拡大
- ・国内は既存子会社の吸収合併でシンプルな事業体に



Group Lease PCL
タイ・ファイナンス事業

48.58%保有



ENGINE
Holdings **ASIA**

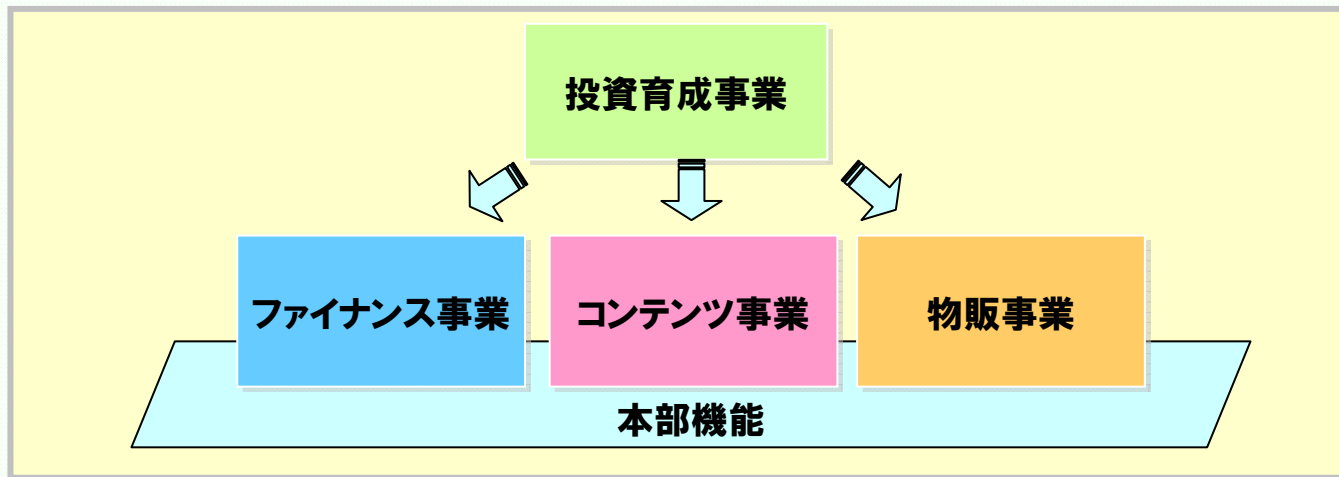
Engine Holdings Asia PTE
シンガポール
投資育成事業



株式会社
ウェッジホールディングス
投資育成・コンテンツ・物販

100%保有

4つの事業セグメント



◆投資育成事業

日本およびシンガポールのEngine Holdings Asia を拠点に事業を展開、投資収益の獲得に加えグループの成長をにらんだM&A活動を担う

◆ファイナンス事業

タイにおいてオートバイリース事業を営むGroup Lease PCLによる事業。2009年7月より子会社化

◆コンテンツ事業

創業事業である編集・出版関連事業に加えカードゲームの企画制作が収益の柱。2008年設立の音楽レーベル事業も前期収益化。

◆物販事業

海外玩具製品の輸入代理業に加え、店舗ネットでの小売や企業向けにOEMなどを手がける。

**2011年9月期第1四半期
業績と財務状況**

2011年9月期第1四半期連結経営成績 (P/L)

(単位：百万円)

| | 2011年9月期 第1四半期累計 | (参考)2010年9月期 第1四半期累計 | (参考)2009年9月期 第1四半期累計 | 対前年比 |
|-------|---------------------|-------------------------|-------------------------|---------|
| 売上高 | 978 | 940 | 438 | 104.1% |
| 営業利益 | 293 | 136 | ▲ 16 | 214.7% |
| 経常利益 | 256 | 134 | 23 | 190.0% |
| 当期純利益 | 52 | 4 | 20 | 1265.2% |

- ・ファイナンス事業は順調に推移
- ・昨年度に比較すると、映画関連事業を売却したことにより
国内事業売上高は減少したが、全体では増収 (前年同期比4.1%増)
- ・営業利益も不採算事業の切り離しが功を奏し、前年同期比114.7%増
- ・当期利益についても上記要因により順調に推移

国内不採算事業の整理とファイナンス事業の躍進で順調に推移

連結業績の推移

(単位：千円)

| | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011Q1 | 2011 (予想) |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|--------------|
| 売上高 | 1,337,059 | 3,277,380 | 2,593,505 | 2,139,054 | 2,417,459 | 3,699,833 | 978,840 | 4,100,000 |
| 営業利益 | 94,320 | 96,373 | -265,347 | 62,321 | 137,362 | 802,506 | 293,967 | 1,000,000 |
| 経常利益 | 94,625 | 92,316 | -273,791 | 146,164 | 322,026 | 761,444 | 256,091 | 950,000 |
| 当期純利益 | -534,746 | -717,671 | -525,337 | 81,518 | 204,089 | 369,524 | 52,509 | 400,000 |

売上高経常利益率



- 2008年度より経常黒字化以後、順調に業績が伸長
- 営業利益率、経常利益率については国内不採算事業の整理によりさらに改善
- 当期利益については、オフィス移転等に伴う特別損失計上により低進捗に見えるがほぼ当初計画どおり

国内事業の再編の効果で、利益率が改善

2011年9月期 第1四半期連結財務状況(B/S)

(単位：千円)

| 連結貸借対照表 | 2010年9月期 | 2011年9月期 第1四半期 | 対前期末比 |
|--------------|------------|-------------------|--------|
| 流動資産 | 4,396,646 | 8,396,426 | 191.0% |
| 固定資産 | 5,669,137 | 2,233,813 | 39.4% |
| (内) 投資その他の資産 | 5,108,850 | 1,663,284 | 32.6% |
| 資産合計 | 10,065,783 | 10,630,240 | 105.6% |
| 流動負債 | 2,756,972 | 3,040,701 | 110.3% |
| 固定負債 | 1,817,807 | 2,049,134 | 112.7% |
| 負債合計 | 4,574,780 | 5,089,835 | 111.3% |
| 株主資本合計 | 4,211,638 | 4,238,977 | 100.6% |
| 純資産合計 | 5,491,003 | 5,540,404 | 100.9% |

- ・前期末比では、ファイナンス事業の順調な拡大に伴い資産、負債ともに増加傾向だが、営業貸付金の区分を1年以内、1年超ではなく、正常債権は流動資産として、不良債権のみ固定資産とする区分表記の変更により、流動資産が大幅に増加し、固定資産が大幅に減少している
- ・事業拡大に対応して、ファイナンス事業における借入金(流動負債、固定負債)も増大している
- ・全体としては純資産も増加し、良好な財務状態を維持している

事業基盤の拡充に伴い順調に規模を拡大中

セグメント別業績と 事業トピックス

セグメント別売上高および営業利益

(単位：千円)

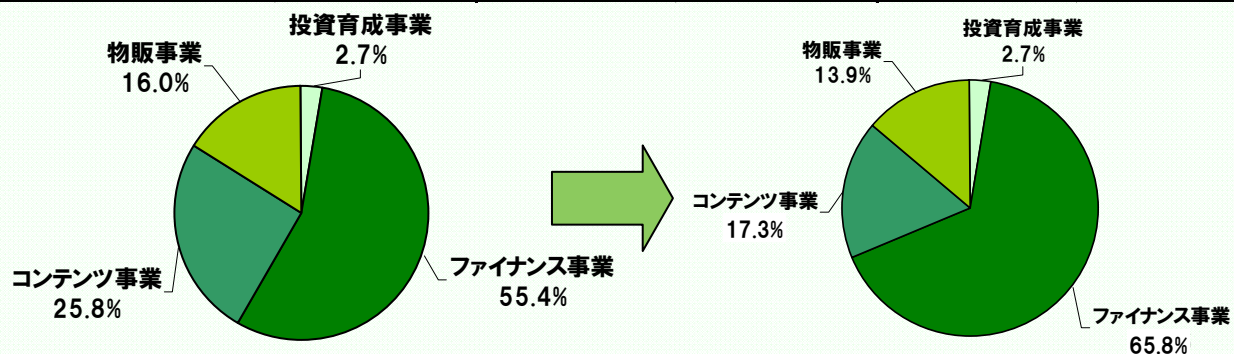
| 報告セグメント | | 2010年9月期 第1四半期累計 | 2011年9月期 第1四半期累計 | 前年同期比 増減率 (%) |
|----------|------|---------------------|---------------------|------------------|
| 投資育成事業 | 売上高 | 25,401 | 26,052 | 2.56% |
| | 営業利益 | 15,010 | 16,527 | 10.11% |
| ファイナンス事業 | 売上高 | 521,349 | 643,724 | 23.47% |
| | 営業利益 | 194,812 | 275,383 | 41.36% |
| コンテンツ事業 | 売上高 | 242,871 | 169,441 | -30.23% |
| | 営業利益 | ▲ 26,805 | 49,855 | 黒字転換 |
| 物販事業 | 売上高 | 150,916 | 135,918 | -9.94% |
| | 営業利益 | ▲ 2,100 | 5,665 | 黒字転換 |
| その他 | 売上高 | | 3,702 | |
| | 営業利益 | | ▲ 23,262 | |
| (合計) | 売上高 | 940,378 | 978,840 | 4.07% |
| | 営業利益 | 136,900 | 293,967 | 114.73% |

ファイナンス事業が伸長、国内事業も再編により利益改善が鮮明

セグメント別売上構成

(単位：千円)

| 報告セグメント | 2010年9月期 第1四半期累計売上 | | 2011年9月期 第1四半期累計売上 | | 前年同期比 増減率 |
|----------|-----------------------|--------|-----------------------|--------|--------------|
| 投資育成事業 | 25,401 | 2.7% | 26,052 | 2.7% | 2.56% |
| ファイナンス事業 | 521,349 | 55.4% | 643,724 | 65.8% | 23.47% |
| コンテンツ事業 | 242,871 | 25.8% | 169,441 | 17.3% | -30.23% |
| 物販事業 | 150,916 | 16.0% | 135,918 | 13.9% | -9.94% |
| その他 | | | 3,702 | 0.4% | |
| (合計) | 940,538 | 100.0% | 978,840 | 100.0% | 4.07% |



- ・ファイナンス事業の順調な拡大が続き、引き続きファイナンス事業セグメントの比率があがっている

高成長のタイにおけるファイナンス事業が伸長し海外比率が拡大

投資育成事業の概況

(単位：千円)

| 報告セグメント | | 2010年9月期 第1四半期累計 | 2011年9月期 第1四半期累計 | 前年同期比 増減率 (%) |
|---------|------|---------------------|---------------------|------------------|
| 投資育成事業 | 売上高 | 25,401 | 26,052 | 2.56% |
| | 営業利益 | 15,010 | 16,527 | 10.11% |

- ・当第1四半期中は大きな業績変動要因となる新たな投資はなく、
転換社債利息等の固定収入が安定して継続
- ・2011年3月に償還満期を迎える転換社債の評価中
 - － 2010年3月に引受けたタイのゼボラ・リゾート保有会社が発行する転換社債について、転換権の行使を視野に入れた事業内容の精査を開始

2010年3月に、タイ王国ピピ島にゼボラリゾートを保有会社の発行する転換社債を引受



ファイナンス事業の概況

(単位：千円)

| 報告セグメント | | 2010年9月期 第1四半期累計 | 2011年9月期 第1四半期累計 | 前年同期比 増減率(%) |
|----------|------|---------------------|---------------------|-----------------|
| ファイナンス事業 | 売上高 | 521,349 | 643,724 | 23.47% |
| | 営業利益 | 194,812 | 275,383 | 41.36% |

- **営業地域拡大で、新規契約の増加が続く**
 - － 前期から注力してきたタイ東北地方への集中的な営業強化が、新規契約件数の増加にも貢献
- **前期からの新規契約の積み上げで、売上伸張が顕著に**
 - － 新規契約は2年程度で回収するビジネスモデル。昨年からの継続的な新規契約増加が影響し、前年同期比では売上はより大きく増加することに
- **中古バイク市場の好調も、収益性の向上に貢献**
 - － 営業拡大のための販売促進費増加を、債権回収方法としての中古バイク販売の好調がカバー。費用増も吸収し、全体では収益性も向上

新規契約の蓄積効果で業績の伸長が続く

コンテンツ事業の概況

(単位：千円)

| 報告セグメント | | 2010年9月期 第1四半期累計 | 2011年9月期 第1四半期累計 | 前年同期比 増減率 (%) |
|---------|------|---------------------|---------------------|------------------|
| コンテンツ事業 | 売上高 | 242,871 | 169,441 | -30.23% |
| | 営業利益 | ▲ 26,805 | 49,855 | 黒字転換 |

- **リストラクチャリングの結果、大幅に黒字転換**
 - 前年同期に不振だった映画・映像事業を2010年3月に売却した結果、売上高が減少となるも営業利益は大きく改善し、黒字転換に
- **カードゲーム事業の好調**
 - 営業利益率の高い事業であるカードゲーム事業も変動性の高いロイヤリティ収入が好調に推移、業績に貢献
 - 2期前より立ち上げた新規カードゲームラインも制作プロセス、体制が確立、収益が安定化

不採算事業の売却で売上減少するも、営業利益は大幅黒字転換

物販事業の概況

(単位：千円)

| 報告セグメント | | 2010年9月期 第1四半期累計 | 2011年9月期 第1四半期累計 | 前年同期比 増減率(%) |
|---------|------|---------------------|---------------------|-----------------|
| 物販事業 | 売上高 | 150,916 | 135,918 | -9.94% |
| | 営業利益 | ▲ 2,100 | 5,665 | 黒字転換 |

- **コスト構造改善の成果で黒字化**
 - － 前年度の事務所および店舗移転や組織再編が功を奏し、売上高は微減となったものの四半期ベースで2期連続して黒字化を達成
- **独自商品の展開**
 - － メーカー化へ向けた取り組みの第一弾として発売したtanomi.comオリジナルの「ニヤリフォン」「ニヤリキーボード」などがヒット
- **円高も利益率を伸長**
 - － 円高により海外商品の輸入販売における粗利益率が向上したことも貢献

採算構造の改善で2四半期で黒字を維持

今後の事業方針と 各事業の取り組み

事業方針

• The Asian Value Innovator

- 東南アジアの活況を活かしつつ、各事業の成長にむけた取り組みを継続
- 海外は今後の成長を果たすため経営体制整備もテーマに
- 日本国内は新規事業育成とビジネスモデルのシフトをはかる取り組みを展開

東南アジア

経営体制の強化

事業拡大にあわせ
継続的な成長を果たすための
体制整備に注力

- 東南アジア事業における企業ガバナンス、統制の強化
- 新たな投資対象事業の発掘
- ファイナンス事業の拡大推進

日本

新事業の育成

新たなビジネスモデルへのシフトや
新規事業の育成を加速

- 経営環境に適応した
ビジネスモデルへのシフト
- 新規事業の育成

投資育成：社債転換で事業化を検討中

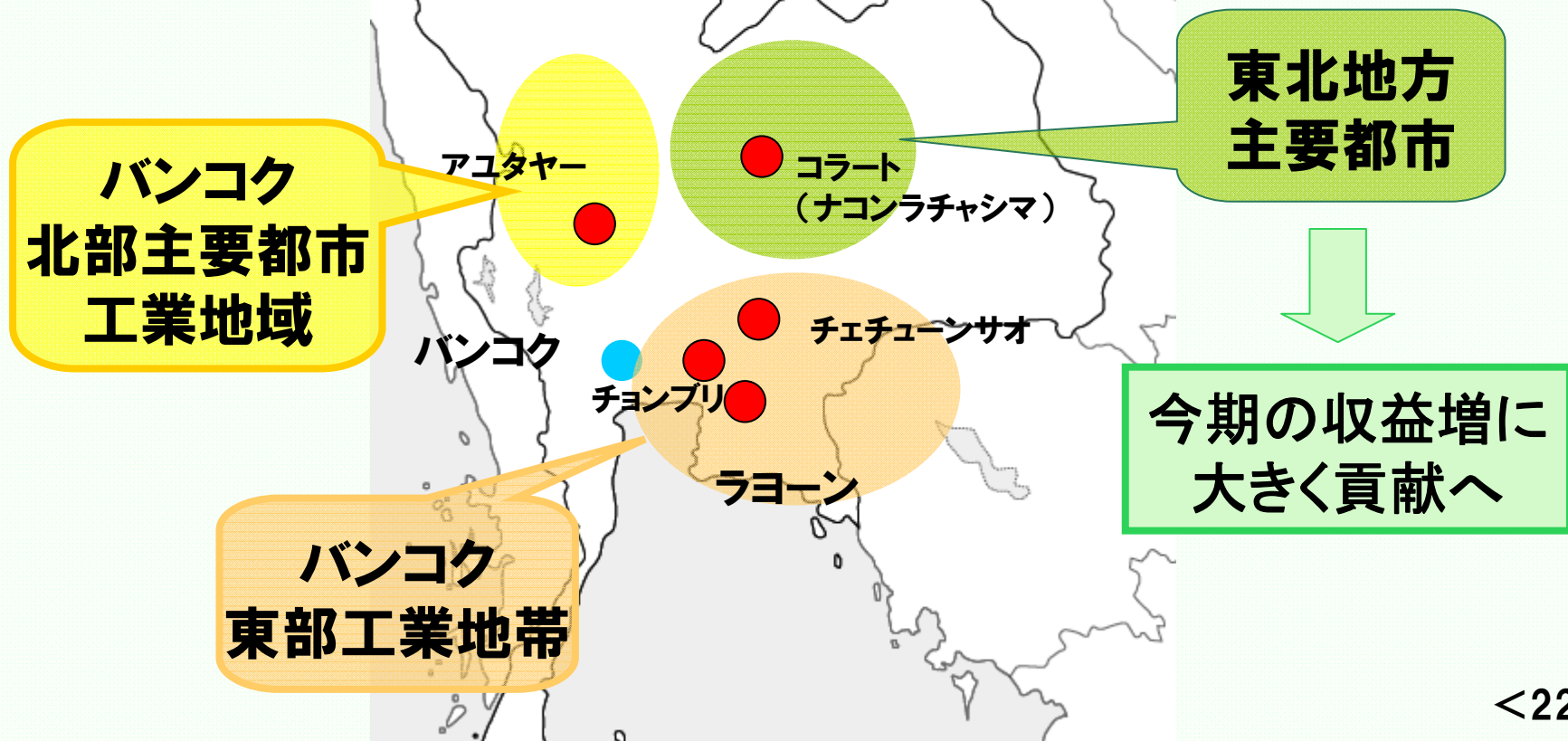
- **タイ：ピピコーラルリゾート(ゼボラリゾート)**
 - 2010年3月に取得した転換社債の償還期限を控え、事業獲得へ向けた詳細な検討を開始
 - ゼボラリゾート自体は、2010年の稼働率も好調に推移、資産性は安定
 - 転換権を行使した場合、間接・直接保有を含め、約64%の株式を獲得できる予定



ファイナンス:地方でのシェア拡大へ

- **営業地域拡大政策を継続**

- 2009年後半以降東北地方主要都市を初めとして営業地域拡大に取り組んだ結果、契約数が着実に伸張傾向に
- 各地域での取り扱いシェア拡大に向けた取り組みを継続中



コンテンツ:新規の売上拡大に注力

• カードゲーム事業

– 国内事業収益の柱であるカードゲームで新ラインを開発中

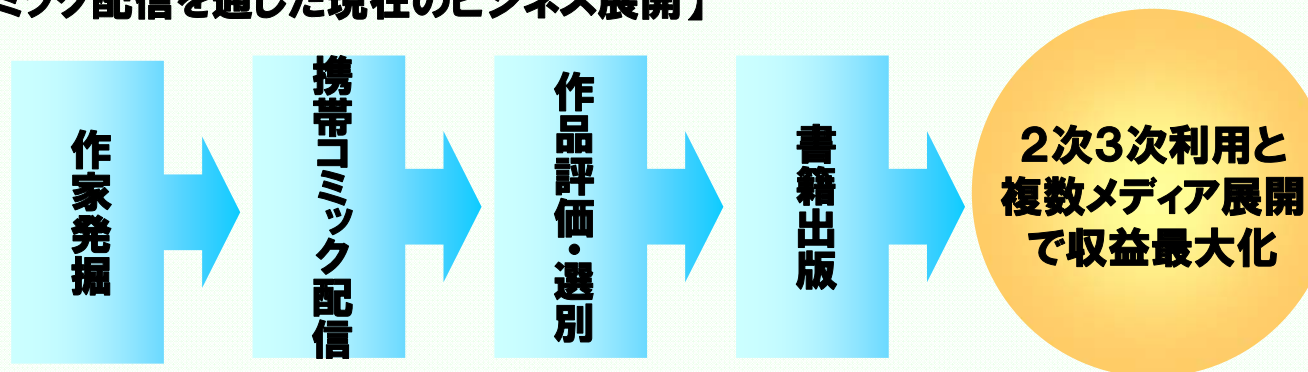
- 営業・開発期間に長期間かかるカードゲームは昨年新作が増加しなかったが、今期は計画通り新ラインの制作を大手メーカーから受注。現在開発中であり、2011年度第3四半期より収益貢献見込み
- 今後もラインを順次拡大することで制作費やロイヤリティによる収益の安定成長を目指す

• 編集・出版関連事業

– コミック携帯配信を軸に、電子書籍市場で新規事業に取りくむ

- 2009年より開始した書き下ろしコミックの携帯配信事業はノウハウ蓄積がすすむ
- 配信ビジネスのネットワークや自社資源とシナジーの見込めるビジネスへの領域拡大を模索中、新領域へのシフトを図る

【コミック配信を通じた現在のビジネス展開】



新規事業：スポーツ関連事業への参入

● 株式会社ペプトワンニュートリション

- 事業開発部門が中心となり、事業化テストを行っていたスポーツ関連のプロジェクトを2010年10月子会社化。傘下で本格的な事業育成へ
- アスリート向け高機能サプリメントの開発・販売とスポーツイベント企画運営の2軸で事業展開中

◆スポーツ関連イベント ペプトプロジェクト



1月21日 プロ野球オリックスと
プロ陸上アスリートのコラボレーション
トレーニングイベントを主催
※スポニチ他スポーツ各紙で掲載

◆高機能アミノ酸系 サプリメント PEPTO ONE



PEPTO ONE

当社グループの課題について

- **成長に伴う経営管理体制強化**
 - 海外子会社の国内の内部統制制度への対応
 - 2010年9月期は海外子会社の内部統制対応作業が未完了となったことから内部統制に関しては意見を表明せず(財務諸表に関しては監査法人から無限定適正意見が表明される)
 - 2011年は体制強化等とともにガバナンス強化にも取り組む
- **人的資源の強化**
 - 海外事業の拡大に伴うマネジメントの拡大、国内事業における新規事業の増加など、プロジェクト型業務に対応するスタッフの育成を、就労環境整備等と合わせて推進中

業績予想と株主還元について

2011年9月期(第10期)の連結業績予想

● 連結通期業績予想と進捗状況

(単位：百万円)

| | 2011年通 期 業績予想 | 2010年通 期 実績 | 2009年通 期 実績 | 対前年比 | 2011年 第一四半期 実績 | 進捗率 |
|-------|---------------------|-------------------|-------------------|--------|----------------------|-------|
| 売上高 | 4,100 | 3,699 | 2,417 | 110.8% | 978 | 23.9% |
| 営業利益 | 1,000 | 802 | 137 | 124.6% | 293 | 29.4% |
| 経常利益 | 950 | 761 | 322 | 124.8% | 256 | 27.0% |
| 当期純利益 | 400 | 369 | 204 | 108.2% | 52 | 13.1% |

- 売上高、営業利益、経常利益については順調に進捗
- 当期純利益に関しては、もともと第1四半期にはオフィス移転費用をはじめとした特別損失を見込んでおり、当初計画どおり
- 最大の収益源ファイナンス事業については今後も順調な拡大を見込む
- 国内事業についても、引き続き事業の改善と新事業の育成を進める予定
- 投資育成事業における新事業の獲得は、今後の業績の修正要因に

ほぼ計画どおりで進捗中

株主還元に関する方針

- **業績に基づく安定的な評価確立、株価水準の回復をめざす**
 - － IR活動の充実や株式評価改善への取り組みを継続的に実施中
 - IR関連報道機関での取材対応により、関連記事掲載数も増加
 - 時価総額、株主数、流動性等の向上を背景に、機関投資家との1on1ミーティングも増加へ
- **安定配当を継続しつつ業績拡大に応じた見直しも実施**
 - － 東南アジアを中心にした今後の成長に向けた資金需要を勘案し、予定配当は1株100円を維持
 - － 今後大幅な業績の変動があった場合は配当見直しを方針とする
 - 子会社からの配当も増加傾向に。前期後半から資本政策の見直しも実施。自己資金の有効活用を図る

事業改善成果を中長期視点で堅実に株主還元へ



Thank You!

弊社IRに関するお問い合わせ先
株式会社ウェッジホールディングス 経営管理本部
TEL: 03-6225-2161 / FAX: 03-3548-0566
wedge-ir@wedge-hd.com
<http://www.wedge-hd.com>

※本資料には将来に関する記述が含まれていますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではありません。また、本資料の内容に関しては未監査であり、その内容の正確性および確実性を保証するものではありません。